



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimuj@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

公立大学法人大阪府立大学理学系研究科 専任教員

1. 助教 1 名
2. (1) 理学系研究科 物理科学専攻
(2) 大阪府堺市
3. 電波天文学
4. ALMA の運用開始を見据えてミリ波・サブミリ波等の電波波長域を中心に観測的研究を進めるとともに、効率的な観測を行うための機器開発等を推進する。
物理科学実験、宇宙・物理に関する講義・演習等を担当。
5. (1) 平成 21 年 10 月 1 日（予定）
(2) 5 年（この間の業績に応じて再任の可否を審査する。ただし、再任は 1 回限りとし、再任後の任期は 3 年とする）。ただし、昇任の場合はこの限りではない。
6. (i) 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
(ii) 学校教育法第 9 条に規定する欠格条項に該当しない方
7. (1) 履歴書（様式不問）、(2) 教育歴（様式不問）、(3) 研究業績書（論文リストは査読付きとそれ以外に分類。国際学会講演・招待講演、学会活動などの社会貢献も含む。様式不問）、(4) 主要な論文 5 編以内の別刷（コピーでも可）、(5) (4) で提出した論文の概要（各 200～400 字程度）、(6) 現在までの研究概要（2,000 字程度）、(7) 今後の研究

計画（2,000 字程度）、(8) 教育に対する方針と抱負について（2,000 字程度）、(9) 過去 5 年間の外部研究費取得状況、(10) 問い合わせのできる方 2 名の連絡先

8. 平成 21 年 6 月 10 日（水）（必着）
9. (1) 公立大学法人大阪府立大学総務部人事課
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号
※封筒の表に「理学系研究科物理科学専攻助教応募書類在中」と朱筆し、「書留」で郵送して下さい。
(2) [専門分野関係]
大阪府立大学理学系研究科 物理科学専攻教授 大西利和
Tel: 072-254-9727（直通）
e-mail: ohnishi@p.s.osakafu-u.ac.jp
[募集全般]
公立大学法人大阪府立大学総務部人事課
Tel: 072-254-9105（直通）
e-mail: jinji-j@ao.osakafu-u.ac.jp
10. 書類審査、必要に応じてプレゼンテーションおよび面接を行います。選考結果については平成 21 年 9 月頃までに郵送で通知します。
※提出書類は A4 判とし、各書類に氏名を記入して下さい。
※提出書類に含まれる個人情報、選考及び採用以外の目的には使用しません。
※原則として、提出書類は返却しません。
11. 給与・勤務条件等は、公立大学法人大阪府立大学の定める規程による。

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 教員

1. 助教 1 名
2. (1) 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
(2) 豊中市
3. 観測的宇宙物理学（高エネルギー天文学）
4. 高エネルギー天文学の実験や観測を進める助教を募集します。現在、常深教授、林田准教授を中心に ASTRO-H 衛星の搭載装置開発、MAXI 衛星に

よる観測準備，すざくなど観測衛星による観測的研究を進めています。これらの仕事を実質的に進めていただくとともに，学生実験などを通して学部や大学院の教育に貢献していただきます。

5. 決定後なるべく早い時期
6. 博士の学位を有するか，またはそれと同等以上の方で，観測装置開発に実績のある人，あるいは経験のある人，あるいは熱意を持っている人。
7. (1) 履歴書. (2) 研究歴. (3) 論文リスト. (4) 主要論文別刷 3 編以内 (コピー可). (5) 研究計画書. (6) 本人について意見を聞ける人，2 名の連絡先 (少なくとも 1 名は申請者の現所属ではないこと)。
8. 2009 年 6 月 30 日 (火) 必着
9. (1) 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-1
大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
長 近藤 忠 Tel: 06-6850-5793
(2) 問合せ先: 常深 博
e-mail: tsunemi@ess.sci.osaka-u.ac.jp
Tel: 06-6850-5477, Fax: 06-6850-5539
10. 封書に「宇宙物理学人事応募書類在中」と朱書きし，簡易書留にて送付すること。応募書類はお返ししません。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

京都教育大学教育学部理学科教員 (准教授)

1. 2008 年 9 月 (第 101 巻第 9 号)
2. 中野英之 (獨協埼玉中学高等学校教諭)
3. 2009 年 4 月 1 日着任

大阪府立大学大学院理学系研究科教授

1. 2008 年 9 月 (第 101 巻 9 号)
2. 大西利和 (名古屋大学 准教授)
3. 2009 年 4 月 1 日

研究助成

藤原セミナーの募集について

趣意

藤原科学財団は，科学技術の振興に寄与することを

目的として，「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から，申請を受け，選考の結果採択を決定したのについて，セミナー開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野: 自然科学の全分野
2. 応募資格: わが国の大学など学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数: 2 件
4. 開催費用援助額: 1 件につき 12,000 千円以内
5. セミナー対象期間: 2010 年 1 月 1 日～2011 年 12 月 31 日
6. 申請受付期間: 2009 年 (平成 21 年) 4 月 1 日 (水)～同年 7 月 31 日 (金) (必着)
7. 申請方法: 「セミナー開催申請書」(1 通) を所属機関長を経由して当財団に提出すること。なお，著名な参加予定者については，セミナーのテーマに関する主要論文 (5 名以内) 1 人につき 1 編，コピーで可) を添付のこと。
8. 申請書提出先・連絡先
〒104-0061 東京都中央区銀座 3-7-12
財団法人 藤原科学財団
Tel: 03-3561-7736 Fax: 03-3561-7860
藤原科学財団ホームページ:
<http://www.fujizai.or.jp> (なお，ホームページにも開催申請書が掲載されております。)

(財)井上科学振興財団，第 26 回井上學術賞・研究奨励賞などの受賞候補者

(財)井上科学振興財団 (井口洋夫理事長) は第 26 回 (2009 年度) 井上學術賞，研究奨励賞などの受賞候補者の募集をしております。

第 26 回井上學術賞

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた 50 歳未満の研究者に対し，學術賞 (賞状および金メダル，副賞 200 万円) を贈呈する。
2. 募集方法: 指定の関係 34 学会，および財団の役員・評議員等からの推薦
3. 天文学会からの推薦件数: 2 件
4. 推薦締切日: 2009 年 8 月 20 日 (木) 学会着
5. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所か下記財団のホームページにあります。ほかに井上研究奨励賞，国際研究集会開催援助，国際研究集会出席旅費，外国人研究者招聘，井上フェロー，井上リサーチアワード (7 月 31 日締切) 久保亮五記念賞 (6 月 30 日締切) などの募集も行っております。こちらは井上科学振興財団へ直接応募とな

ております。

◎照会先：財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町
15-15 南平台今井ビル 601

ホームページ：<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

e-mail: inoue01@inoue-zaidan.or.jp

第6回（平成21年度）「日本学術振興会賞」 受賞候補者推薦について

1. 趣旨

創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者の研究意欲を高め、研究の発展を支援していく趣旨で平成15年度より日本学術振興会賞として創設いたしました。詳細はホームページアドレスに記載されております。

2. 対象者

人文・社会科学および自然科学にわたる全分野で、平成21年4月1日現在45歳未満であり、博士の学位を取得、あるいは同程度以上の学術研究能力を有するもの。

3. 推薦権者

(1) 我が国の大学等研究機関の長

(2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者

4. 授賞

20件程度で賞状、賞牌、副賞として研究奨励金110万円を贈呈。

なお、日本学士院の協力を得て、日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます。

5. 受付期間

平成21年5月26日（火）～28日（木）必着

6. 提出先および問合せ先

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

独立法人 日本学術振興会総務部研究者養成課
「日本学術振興会賞」担当

Tel: 03-3263-0912

Fax: 03-3222-1986

ホームページアドレス

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html>

研究会・集案案内

国立天文台野辺山宇宙電波観測所「電波天文 観測実習」の参加者募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、45 m 電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います（総合研究大学院大学「夏の体験入学」）。当観測所は、45 m 望遠鏡・10 m サブミリ波望遠鏡（南米チリ）を用いて多数の星間分子の発見、原始惑星系ガス円盤の検出、銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果を上げています。この「電波天文観測実習」は、天文学に関心をもつ大学生の皆さんに研究の最前線で活躍中の45 m 望遠鏡を使った観測実習を通して、電波天文学の実際に触れていただくのがねらいです。参加者には普段研究者が行っている45 m 望遠鏡の操作、データ取得・解析、結果のまとめをしていただきます。特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。関心をお持ちの多くの方のご応募をお待ちしています。

●開催日程：2009年8月3日（月）13時30分～8月7日（金）11時30分（4泊5日）

●場所：国立天文台野辺山宇宙電波観測所（JR 小海線野辺山駅から徒歩40分）

●定員：8名程度

●対象：大学の理科系学部（教育学部の理科系も含む）に属する学生（1～4年生）

●費用：旅費・滞在費がサポートされる可能性があります。

●応募方法：住所、氏名、所属大学および学部・学科、学年、年齢、性別、電話番号、E-mail アドレス（持っている場合）を明記のうえ、以下の(1)～(4)に回答し、7月6日（月）必着で下記の応募先まで送付。

(1) 大学で物理実験の経験がありますか？

(2) (1)で「はい」と回答された場合、一番印象に残った実験は何ですか？どのような点で印象に残ったのですか？

(3) あなたが持っている天文学への想い・イメージについて何でも結構ですでお書き下さい。（600字以内）

(4) 実習に参加希望の理由は何ですか？（600字以内）

なお、送付された資料は返送いたしません。

●選考結果の発表：7月13日郵便で発送

（*上記住所以外への発送を希望する場合は発送

先を明記して下さい。)

- 問合せ先・応募先: 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2
国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」
Tel: 0267-98-4333
ホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/misc/45school.html>
封筒に「観測実習応募書類在中」と朱書して下さい。

第18回 公開セミナー「天文学の最前線」 宇宙の磁場～太陽から深宇宙まで

名古屋大学と名古屋市科学館では毎年8月に第一線で活躍する天文学研究者を集め、一般向けのわかりやすい講演会と研究室紹介を開催しております。18回目となる今年のテーマは「宇宙の磁場」です。磁場とは何か、磁場の物理に関する講義も交えながら、宇宙空間での磁場の役割について、最先端の研究成果とともに講演します。

日 時: 平成21年8月22日(土)～24日(月)
会 場: 名古屋大学(シンポジオン, 野依記念学術交流館), 名古屋市科学館(サイエンスホール)
主 催: 名古屋大学大学院理学研究科, 名古屋市科学館
講 師: 常田佐久(国立天文台 教授), 柴田一成(京都大学 教授), 山田章一(早稲田大学 教授), 松元亮治(千葉大学 教授), ほか
内 容: 講演会(22, 23日), 研究室見学(24日)
対 象: 高校生以上
定 員: 300名(高校生・大学生・教員優先, 研究室紹介は定員100名)
受講料: 無料(但し資料代実費500円(高生), 1,000円(一般)をいただきます。)

締 切: 7月5日(日) 必着

申込方法: インターネット, または往復ハガキ

○インターネット

公開セミナーホームページ(<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/seminar/>)より。

○往復ハガキ

往復ハガキに住所, 氏名, 参加人数, 高校生・大学生・教員・その他一般の区分, 研究室見学参加希望の有無を記入のうえ, 下記まで。

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号 名古屋市科学館「公開セミナー」係
(申込時の情報は, 主催者開催のセミナー等の案内以外には使用しません。

また, 締め切り後, 1週間程度で受講票をお送りし

ます。当日は, 受講票を持参のうえ参加ください。)

問合せ先: 名古屋大学大学院理学研究科 Ae 研「公開セミナー」係(早川)

Tel: 052-789-2843

ホームページ: <http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/seminar/>

京都大学 飛騨天文台一般公開のお知らせ

京都大学飛騨天文台では, 来たる8月1日(土)に一般公開を行います。施設の公開と天体観望会を行い, 京大天文台で現在行われている最先端の天文学研究を, わかりやすく説明します。運営管理上, 先着100名までの受け付けとなっておりますので, お早めにお申込み下さい。

〈一般公開〉

日 時: 2009年8月1日(土) 13:00～20:30

場 所: 岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学大学院理学研究科附属飛騨天文台
公開施設と内容:

〈昼〉 ドームレス太陽望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。

フレアモニター望遠鏡や太陽磁場活動望遠鏡による太陽像の解説。

小型望遠鏡による太陽観望。花山天文台(京都)からの中継。

最先端の天文学研究解説(講演)。

〈夜〉 65cm 屈折望遠鏡, および小型望遠鏡による天体観望(月, 二重星など)。

天文学に関係する工作教室。最先端の天文学研究解説(講演)。

〈交通機関〉

公共交通機関がありませんので, JR高山駅または上宝支所までお越し下さい。

JR高山駅と上宝支所からシャトルバス(JR高山駅から往復大人2,000円, 子供1,000円。上宝支所から往復大人1,000円, 子供500円)を運行します。

自家用車で直接天文台へのお越しはできません。ご了承のほどよろしくお願いたします。自家用車の場合, 上宝支所の駐車場(無料)をご利用いただけます。

シャトルバス時刻表

JR高山駅発 12:30, 13:30, 15:30, 17:30

上宝支所発 12:15, 13:15, 14:15, 15:15,

16:15, 17:15, 18:15

飛騨天文台までの所用時間

JR 高山駅から約 90 分, 上宝支所から約 30 分
(申込方法)

住所, 氏名, 電話連絡先, E-mail アドレス, アクセス方法 (バス乗車地と希望時刻) を書いて, 往復葉書または電子メール (E-mail) での事前申込みを行って下さい。

団体の場合は代表者の住所, 氏名, 電話連絡先のほかに, 見学者の総数と各人の氏名も漏れなく記入して下さい。

締切: 7 月 10 日 (金) 必着 (先着 100 名まで)

〈宛先〉〒506-1314 岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学飛騨天文台

Tel: 0578-86-2311 Fax: 0578-86-2118

e-mail: infohida@kwasan.kyoto-u.ac.jp

件名を「8/1 飛騨一般公開」として下さい。

〈京都大学大学院理学研究科附属天文台のホームページ〉

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp>

〈主催〉京都大学大学院理学研究科附属天文台, NPO

法人花山星空ネットワーク

〈後援〉岐阜県高山市, 世界天文年 2009 日本委員会

会務案内

【理事会議事録】

日時: 2009 年 3 月 25 日 (水) 12:00~13:15

場所: 大阪府立大学総合教育研究棟 1F 会議室

出席者: 國枝, 柴田, 渡邊, 竹田, 高田, 田代, 田村, 堂谷, 児玉, 本間, 半田, 小川, 藤沢, 小鷲, 藤本 (以上 15 名)

欠席者: なし

また, 東條事務長が出席した。

議事に先立って議長と署名人の確認がなされた。

議長: 國枝秀世

署名人: 高田唯史, 竹田洋一

報告

1. 前回議事録の確認

資料 1 に基づいて前回 (2009 年 1 月 10 日) の理事会議事録が報告・確認された。

2. 開催中の年会について

本間年会理事より目下開催中の春季年会についての進行状況 (前日の記者会見とマスコミの反応, 参加者数, 正規セッション, 各種特別企画, など) が報告された。

3. 今後の年会について

次回 2009 年秋季年会 (山口大: 9 月 14~16 日)

の責任者である藤沢年会開催地理事より準備の進捗状況が報告された。(ほぼ予定通りに進んでいる。アクセスのための足や宿の確保や, AO 入試と日程が一部重なること, などの問題が多少懸念されるが手は打っている。)

さらに, 来年 2010 年の春 (広島大: 3 月 24~27 日) と秋 (金沢大: 9 月 22~24 日) の年会の準備進行状況もそれぞれ小鷲, 藤本の両開催地理事より報告された。いずれも特に問題もなく進んでいる。また, それ以後の 2011 年と 2012 年の年会開催地の選定作業状況が竹田庶務理事より報告された。2011 年春は筑波大学, 2012 年秋は大分大学に決まり, 残る 2011 年秋と 2012 年春はいくつかに打診中である。

4. 特例的に休会にした会員について

前回の理事会で検討された, 病気のために一時休会のやむなきに至りその期間会費が払えず未納だったが, このたび健康が回復して研究と学業に復帰することができた一学生会員の処遇に関して, 田村会計理事より報告があった。確かに病気だったことと休学したことの証明書類を提出してもらい確認ができたので, この期間の会費は特別に免除することにした。今後こういう事例に関しては同様の扱いをする休会という制度を正式に設ける予定。

5. 入会と退会 (除名) に関する方針について

竹田庶務理事より, 最近の具体的な事例に即して, 入会と退会 (除名) の手続きに関する問題点が提示され, それについて意見の交換があった。

現在は正会員の資格として「天文学に関して大学卒業程度の学識を持つか, あるいは天文学・天体観測に一定の経験を有する」となっているので学部学生が正会員に申請した場合, 前者の基準に従ってとりあえずは準会員で入会してもらって正会員になるのは大学院に入るまで待ってもらっている。ところが後者の条件の「一定の経験」という意味が曖昧であるので一般人の正会員入会希望者に対しては実質上資格審査がなされていない状態であり, この意味で実際上ダブルスタンダードになっているのは問題である。これに関して, 出席者からは, 「正会員入会の場合は申請書に経歴や入会目的を詳細に記入してもらって理事会での入会審査を今よりももっと厳正に行うようにしてはどうか」, 「(以前行っていたように) 正会員の新規入会申請に際しては他の正会員の推薦を義務づけてはどうか」, などの改善に向けた意見が出され, 実務理事で検討することになった。

会員の退会は個人の自由であるのでいつでも可能であるが, 会費滞納分がある場合はまずそれを

完済してもらってから正式に退会届けを出して退会が成立する。幾度も督促状を出しても応ずることなくいつまでも滞納を続ける場合は厳しい除名処分となる。現行の規則では滞納が1年続けば除名処分できるのであるが、実際はさらにもう少しばかり待ってから除名の執行を行うことにしている。この手続きやタイミングについての議論がなされた。退会と除名は全く異なること、未納で除名になったら負債はいつまでも消えずに残ること（もし除名者が再入会を希望する場合はまずその過去の滞納分を払わないと認められない）、などが会員の間で正しく認識されていないのでその規則をもっと周知徹底させることがまず必要だとの意見も出された。

6. 巡回展示について

前回の理事会でも報告されたが、日本天文学会が共催する世界天文年の展示会（本年5月から東京～仙台～新潟～名古屋～大阪と全国各地を巡回）の準備が着々と進んでおり、本年会でも重点的に広報された（記者会見では最初の会場の国立科学博物館の洞口氏から、総会では柴田副理事長により）ことが國枝理事長から紹介された。

7. その他

7.1 天文月報の新たな取り組みについて

編集陣が一新したことを機に企画されている天文月報の新たな記事や方針についての紹介が児玉月報理事よりなされた。

一つは林忠四郎賞受賞者に依頼して書いてもらう授賞対象研究の内容についてのわかりやすい解説記事。これについてはPASJでも企画されている依頼のレビューと重複して著者に負担になりすぎないかとの意見があった。もう一つは、準会員の数が年々減少傾向にあるのは天文月報の記事が難しすぎるからではないかとの見地から、プロの天文学研究者が書く記事だけでなく、アマチュア天文家や公共天文台などの紹介などの親しみやすい内容も適宜交えていきたいとのこと。「内容的に難しくても面白い記事はある」、「準会員の減少は天文月報の記事とは直接関係はなく、インターネットなどで会員にならなくてもいくらかでも情報が得られる社会になったからではないか」、「読者層がどのような記事を望んでいるのかを知るべくアンケート調査を企画してはどうか」などの意見が出された。

7.2 年会の講演数に関する制限について

前回の理事会でも報告があった、年会の講演数に制限を設ける件について年会実行委員会によ

て見直しがなされた改定案が本間年会理事より紹介された。一人あたりの講演数は最大3件までとし、うち口頭のみはa講演は最大1件に限り、3件の場合は必ずポスターのみはc講演を含めるというもの。今回は特に異論も出なかったので次回の年会から採用される見通しである。

7.3 男女共同参画関連の催しについて

天文学会理事長名で科学技術振興機構（JST）に申請していた男女共参画関連の補助金が認められたので、女子中高生を主な対象としつつも、男女・世代の別を限らず天文学の教育・普及事業を推進する催しが今年から始まることが男女共同参画委員でもある田代会計理事より報告された。ハワイの女性研究者を日本に招いての講演会、一日天文台員経験企画、望遠鏡製作体験、夏の学校、中高生のための科学塾など。

7.4 天体発見賞・天文功労賞の選考について

会員である佐藤勲氏から天体発見賞・天文功労賞の選考に関する疑問がtennetに提出された件につき、まずは事実関係を明らかにするべく、天体発見賞選考委員長など関係者とも話し合っただけ状況を調査したことが國枝理事長から報告された。受賞者の資格・所属については相互に認識のずれが見られること（土井氏はあくまでJAXAの職員で米国に出向中と位置づけられる）、超新星発見はやはり天体物理学では特にインパクトが大きいものと見なしたいこと、天文功労賞は単に数の大小で決めているわけではなく総合的に判断していること、などの見解が明らかにされた。

選考委員会のメンバーに関しては、公共天文台の関係者を加えるなどアマチュアに対する配慮もしている。ただ、特定の人あまりに長く委員を続けることは好ましくないで、それに当たるケースがあるかどうかの調査をまず行い、もし該当する事例があれば対処を検討することになった。

議題

1. 新入会員の承認

資料2に基づき、新規入会予定者のリストが示され、いずれもこのまま承認された。

[次回の理事会]

次回の理事会は6月13日（土）の午後に行われる。場所は未定だが東京駅近くの会議室を借りることを検討中。

2009年4月9日

議長 國枝秀世 ㊟

署名人 高田唯史 ㊟

署名人 竹田洋一 ㊟

【総会議事録】

開催日時：2009年3月25日(水)午後16時30分～18時
開催場所：大阪府立大学 U-Hall (白鷺, H会場)

出席者の確認の結果、事前投票総数(会場参加者との重複は除く)は387名、会場参加は168名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は480名で、定足数(正会員総数1,675名の5分の1=335名)を満たしていることを確認した。

議長は規約に則り國枝理事長が務めた。次に署名人として堂谷忠靖氏、矢治健太郎氏が選出された。

つづいて各賞の授与式が行われた。はじめに相馬天体発見賞選考委員長の司会のもと、天体発見賞、天体発見功労賞、天文功労賞が、以下の方々に授与された。天体発見賞 市村義美(2件)、板垣公一(9件)、藤田康英(1件)、金田 宏(1件：欠席)、西山浩一・椋島富士夫(5件)、小林隆男(1件)の各氏

天体発見功労賞 板垣公一(2件)、板垣公一・金田宏(1件：金田氏のみ欠席)、山本 稔(1件：欠席)、中村祐二(1件：欠席)、長谷田勝美(2件：欠席)、工藤哲生(1件：欠席)、西村栄男(1件：欠席)、櫻井幸夫(1件)、広瀬洋治(1件)の各氏

天文功労賞 長期的な業績として北尾浩一氏

受賞者を代表して北尾浩一氏がスピーチを行った。

次に、研究奨励賞、林 忠二郎賞および欧文研究報告論文賞が、以下の方々に授与された。

研究奨励賞 井口 聖(欠席)、稲田直久の各氏

林 忠二郎賞 杉山直氏

欧文研究報告論文賞 藤田 裕氏、土橋一仁氏(ほか6名)の各氏

議事の経過および結果

1. 高田理事が資料に基づき、2008年度事業報告の説明を行った(第1号議案)。
2. 田村理事が資料に基づき、2008年度決算報告の説明を行い、また井上監事が監査報告について説明を行った(第2号議案)。
3. 第1号議案、第2号議案は各々賛成多数で承認された。

討議・報告等

柴田副理事長より百周年記念・世界天文年巡回展示の時期や内容について報告が行われた。

海部宣男氏より学術会議の活動報告が行われ、IAUへの新規会員の推薦や長期計画の策定に関する活動状

況について説明があった。

また世界天文年に関する活動について渡部潤一氏より報告が行われた。

國枝理事長より、宇宙基本法に対する天文学会からの要望書について報告が行われ、井上 一氏より補足説明が行われた。

林 左絵子氏より男女共同参画委員会からの報告が行われた。

松村雅文氏より指定管理者制度に関する共同声明について報告が行われた。

年会の開催日が卒業式と重なるなどの問題があり、開催日程について工夫できないのかとの質問があったが、開催地の都合などで春季年会在3月末になることは現在のところ避けられない部分があり、可能な限り努力はするがやむを得ない場合もあるとの見解が、國枝理事長及び本間年会理事より示された。

2009年4月9日

議長 國枝秀世 ㊤

署名人 堂谷忠靖 ㊤

署名人 矢治健太郎 ㊤

【評議員会議事録】

日時：2009年3月26日(木)12:00～13:10

場所：大阪府立大学総合教育研究棟1F会議室

出席者：海部、郷田、柴田、須藤、渡部、坂田、杉山、筒井、望月、山田(以上10名)

有効委任状提出者：岡村、中川(以上2名)

欠席者：井上、永田、宮川、家、池内、佐藤、谷口、観山(以上8名)

他に國枝理事長、渡邊副理事長、竹田・高田庶務理事、田代・田村会計理事、本間年会理事、東條事務長が出席した。

(なお柴田副理事長は評議員も兼ねているので両方の立場からの出席となる。)

議事に先立って議長と署名人の選出がなされた。

議長：渡部潤一

署名人：須藤 靖、杉山 直

報告

1. 前回議事録の確認
前回(2009年1月31日)の評議員会の議事録(資料1)についての確認がなされた。
2. 開催中の年会について
本間年会理事より目下開催中の春季年会のこれまでの進行状況(朝日、毎日、読売、産経の四紙の取材があった記者会見、産経紙に掲載された

銀河中心ブラックホールの研究成果、現時点での参加者数、正規セッション、総会、各種特別企画、など）が報告された。

3. 今後の年会について

前日の理事会で、今後2年間の年会〔2009年秋（山口大：9月14～16日）、2010年春（広島大：3月24～27日）、2010年秋（金沢大：9月22～24日）〕を担当する各開催地理事から準備の進捗状況の報告があったので、その内容を竹田庶務理事がまとめて述べた。いずれも特に大きな問題もなく順調に進んでいる。また、引き続き、2011年と2012年の年会開催地の選定作業状況が竹田庶務理事より報告された。2011年春は筑波大学、2012年秋は大分大学に決まり、残る2011年秋と2012年春はいくつかに打診中である。

前日の総会で「春の年会時期が卒業式とかぶってしまう傾向があるので困る」との会員からの指摘があったこともあり、年会の日程の決め方も話題になった。現状では開催地の大学の行事に合わせて時期が選ばれており、あまり自由にはならない点はあるが、状況の許す限り他の学会などの開催時期と重ならないような配慮をお願いする努力をするようになった。

4. 入会と退会（除名）に関する方針について

竹田庶務理事より、最近の具体的な事例に即して、入会と退会（除名）の手続きに関する問題点が報告され、それについて意見の交換があった。

入会に際しての正会員の資格は、天文学を学ぶ学生についてはある程度明確に記されている（大学卒程度の天文学の知識を有すること）ので「大学院生以上」という目安が設定されているのに対して、一般の場合は曖昧であるために実質上資格審査がほとんどなされておらず、学生の場合と一般の場合でダブルスタンダードになっていることが問題となっている。これについては「以前採用していたように正会員入会申請者には他の正会員の推薦を義務付けることを復活させてはどうか」、「それは実質的にはあまり機能しないと思われるので理事会での資格審査をもっと厳正にしたほうがよい」、などの意見が出された。いずれにせよ何らかの手を打つ必要があるのは確かなので、以前特別会員/通常会員から正会員/準会員に移行した際になぜ推薦の義務付けを撤廃したのかのいきさつを調査するとともに、入会申請にあたっては経歴や入会目的を詳細に記入してもらおうべくフォームの改訂も検討することになった。

会費滞納者が退会する場合はまず滞納分を完済

してもらってから正式に退会届けを出して退会が成立する。幾度も督促状を出しても応ずることなくいつまでも滞納を続ける会員は退会ではなくもっと厳しい除名処分となる。現行の規則では滞納が1年続けば除名にできるのであるが、実際は更にもうしばらく待って督促を続けてから除名の執行を行うことにしているの、このタイミングをどうするかという問題が現場サイドで持ち上がっている。これについては「除名は恥ずべき処分であることを明確にするためにペナルティの意味も込めて除名者と退会者ははっきり区別して公表すべきではないか」（現在は除名者もあえて退会者と一緒にして区別せずに天文月報に掲載している）との意見も出された。またこれに絡む事柄として、長年務めた会員などを念頭に置いて、名誉会員や終身会員の制度を考えてもよいのではないかとの声も出た。

5. 巡回展示について

柴田評議員（副理事長）より日本天文学会が共催する世界天文年の展示会（本年5月から東京～仙台～新潟～名古屋～大阪と全国各地を巡回）について、前日の総会でも出席者を前に報告したことが簡単に述べられた。「全国各地と言っても九州や北海道など巡らないところがあるのは残念だ」、「世界天文年日本委員会と共に共催団体であるにもかかわらず天文学会の存在がはっきりしてないのもっと学会が目に見える形での世界天文年イベントも考えるべきではないか」、などの声があったのを受け、「夏の七夕の時期あたりを目処として天文学会の肝入りで講演会などのイベントを大々的に全国的規模で同時に行って世界天文年を盛り上げてはどうか」との意見が出され、一同異論はなく早速企画に着手することになった（担当は柴田副理事長）。

6. その他

6.1 男女共同参画関連の催しについて

天文学会理事長名で科学技術振興機構（JST）に申請していた平成21年度「女子中高生の理系進路選択支援事業」（男女共同参画委員会、代表：林 左絵子氏）の補助金が認められた件が男女共同参画委員でもある望月評議員から報告された。これを受けて、女子中高生を主な対象としつつも、男女・世代の別を限らず天文学の教育・普及事業を推進する催しが、本年度はさらに活発化することになる。具体的には、ハワイの女性研究者を日本に招いての講演会、望遠鏡製作の実地体験、一日天文台員の経験企画、などが西はりま天

文台, 和歌山大学等を中心に国内数カ所で行われる。また同事業で採択された独立の企画として, 女子中高生参加の夏の学校 (国立女性会館, 男女共同参画学協会連絡会), 京都での関西科学塾 (代表: 柴田評議員兼副理事長) があり, どちらも天文学会関係者が深く関与しているので, 学会の企画と互いに協力して進めることになる。海部評議員から女性の天文学者の数は日本はまだ欧米に比べると少ないとはいえ, 1985年以降は急に増える傾向が見られるのは面白い, とのコメントがあった。

6.2 天体発見賞・天文功労賞の選考について

会員である佐藤勲氏から天体発見賞・天文功労賞の選考に関する疑問が tennet に提出された件につき, 前日の理事会でも報告した以下の内容が國枝理事長から述べられた。

- 事実関係を明らかにするべく, 天体発見賞選考委員長など関係者とも話し合って状況を調査し, 以下の見解に至った。
- 受賞者の資格・所属の判断については相互に認識のずれがあるようだ (委員会は土井氏は JAXA の職員で米国に意向中と見なしている)。
- 超新星発見はやはり天体物理学では特にインパクトが大きいものと考えたい。
- 天文功労賞は単に発見数の大小で決めるわけではなく総合的に判断している。
- 選考委員会のメンバーに関しては, 公共天文台の関係者を加えるなどアマチュアに対する配慮もしている。ただ特定人物があまりに長く委員を続けることは好ましくないで, もしそういう事例があれば対処を検討するべく, 該当する

ケースの有無をまず調査する。

「受賞者については委員会が独断で指名して決めるのではなく, あくまで外部からの推薦に基づいて決定するという開かれたシステムになっていることももっと広く知ってもらいたい」との意見も出された。いずれにせよ, 会員の声は真摯に受け止めて誠意を持った対応をすべきなのでどのような形で回答をするかについても話し合われた。

[次回の評議員会について]

次回の評議員会は 6 月 27 日 (土) の午後に行われる。場所は未定だが東京駅近くの会議室を借りることを検討中。

2009 年 4 月 9 日

議長 渡部潤一 @

署名人 須藤 靖 @

署名人 杉山 直 @

日本天文学会 2009 年春季年会報告

2009 年春季年会は, 3 月 24 日 (火) から 27 日 (金) の 4 日間, 大阪府立大学 (大阪府・堺市) にて口頭講演会場 8, ポスター会場 9 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 420 件, ポスター講演が 226 件であり, 合計で 646 講演だった。年会参加者は 861 名であった。ジュニアセッション・天文教育フォーラムのみの参加者も 265 名あった。開催地理事の小川英夫氏, 開催地幹事の米倉覚則氏のほか大阪府立大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により, 順調に進行した。また, 次の特別講演と特別セッションが開かれた。

	3 月 24 日 (火)		3 月 25 日 (水)		3 月 26 日 (木)		3 月 27 日 (金)	
	13:00-15:00	16:00-17:00	10:00-12:00	14:00-15:00	10:00-12:00	14:00-16:00	10:00-12:00	14:00-16:00
A	井上 允 (国立天文台)	三好 真 (国立天文台)	上田佳宏 (京都市大)	小嶋康史 (広島大)	藤田 裕 (大阪大)	大須賀 健 (国立天文台)	秋山正幸 (東北大)	山田 亨 (東北大)
B	梅田秀之 (東京大)	前田啓一 (IPMU)	固武 慶 (国立天文台)	河合誠之 (東工大)	牧島一夫 (東京大)	村上敏夫 (金沢大)	小谷太郎 (青山学院大)	根来 均 (日本大)
C	吉川 真 (JAXA/ISAS)	関口朋彦 (北海道教育大)	臼田知史 (国立天文台)	百瀬宗武 (茨城大)	野村英子 (京都市大)	松本倫明 (法政大)	佐藤文衛 (東工大)	中本泰史 (東工大)
D	市来浄興 (名古屋大)	杉山 直 (名古屋大)	須田拓馬 (北海道大)	出口修至 (国立天文台)	山村一誠 (JAXA/ISAS)	斎藤正雄 (国立天文台)	釜谷秀幸 (防衛大学校)	松本浩典 (京都市大)
E	國枝秀世 (名古屋大)	長尾 透 (愛媛大)	今西昌俊 (国立天文台)	大田 泉 (近畿大)	大西利和 (名古屋大)	川口則幸 (国立天文台)	寺田 宏 (国立天文台)	栗田光樹夫 (名古屋大)
F	黒田武彦 (西はりま天文台)	半田利弘 (東京大)	金田英宏 (名古屋大)	市川 隆 (東北大)	芝井 広 (大阪大)	栗木久光 (愛媛大)	大橋隆哉 (首都大学東京)	中澤知洋 (東京大)
G	一本 潔 (京都市大)	下条圭美 (国立天文台)	勝川行雄 (国立天文台)	増田 智 (名古屋大)	真柄哲也 (国立天文台)	中西裕之 (鹿児島大)	平下博之 (台湾 ASIAA)	和田桂一 (国立天文台)

特別講演：「Fermi ガンマ線宇宙望遠鏡の半年間の成果」
 講演者：深沢泰司（広島大学）
 「ALMA 特別セッション」
 世話人：立松健一（国立天文台）

座長は前ページの 56 名の方々に務めていただいた。
 会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する
 (敬称略)。

〈記者会見〉

春季年会の前日、3月23日(月)14:00から、学術交流会館多目的ホールにて行われた。柴田一成副理事長より挨拶と日本天文学会および各賞の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関4社の出席があった。これらの内容は、4月18日までに確認できたもので全国紙1紙に1件の記事として掲載され、その他、地方紙やインターネットでも複数掲載が確認された。

● 研究発表

- (1) 太陽黒点がもつ顕著なガスの運動（エバーシェッド効果）の起源—100年の謎が今明かされる！—
 記者会見出席者：一本 潔（京都大学）
 関連する講演番号：M25a
- (2) 宇宙に吠える巨大モンスター—銀河系の中心、超巨大ブラックホールの爆発現象—
 記者会見出席者：西山正吾（京都大学）、長田哲也（京都大学）、羽田野裕史（名古屋大）
 関連する講演番号：A04a
- (3) 日本天文学会創立100周年記念・世界天文年2009巡回企画展
 「ガリレオの天体観測から400年—宇宙の謎を解き明かす—」
 記者会見出席者：洞口俊博（国立科学博物館）、柴田一成（京都大学）
 関連する講演番号：なし

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが、3月24日(火)17:00から約1時間半、「学校教員の持つべき天文ミニマムとその支援」というテーマで開催された。2009年度から幼稚園から高等学校までの学校教員に対して「教員免許更新制」が導入されるのに伴って、主に全国の大学が更新講習実施の受け皿となっている。講習には必須領域である「教育の最新事情」以外にも選択領域として自由なテーマ設定可能な時間が設けられている。毎年10万人にも及ぶ受講者に対して天文学の果たせる役割は小さくないと思

われる。この講習を機会として、学校現場において教員自身が最低限理解すべきミニマムが何で、そのためには天文学関係者がどのような支援ができるのかを考えることが重要である。そこで、フォーラムではさまざまな立場からの報告をいただいた。

最初に現場教員の立場から大阪市立玉出中学校の渡辺洋一さんが、現場教員の様子や期待されている講習内容などについてユーモアを交えて報告された。例として教科書にある観察実験のコツ、望遠鏡の使い方、空間概念の教え方などを挙げられていた。講習をきっかけとしてタテやヨコの連携ができれば、という期待も話された。一方、教員を養成する立場からは愛知教育大学の高橋真聡さんが、制度そのものの問題点などを指摘され、実際に2008年度に試行された予備講習講師の経験を報告された。受講者の多様性や知識不足を実感されたことから、今後は教員用の指導要領や教員免許更新用のテキストの必要性を訴えられた。続いて、普及経験者の立場として国立天文台広報普及員の高梨直紘さんが、自らが立ち上げに参加された天文学普及プロジェクト「天ブラ」の活動を紹介をされた。従来の「教育」とは違ったベクトルを持った活動として、さまざまな専門性を持った人間のコラボレーションで自由な発想で楽しい活動を目指していることなどを話された。特に、ひとりひとりにあったコミュニケーション方法の重要性についても述べられた。さらに研究者としての立場からは、国立天文台国際連携室長の関口和寛さんが登壇された。科学の中でも、天文学の持つ広い文化や哲学の背景から、理科への導入口としての大きな可能性について言及された。また国立天文台においても、学校教員に感動を与える体験教材のパッケージを開発中であることを報告された。最後に天文以外の理科教育の関係者ということで、京都教育大学の谷口和成さんに、「物理学会の教育支援の現状」として報告をいただいた。日本物理学会としての直接的な講習の支援は行っていないが、情報提供の場としてシンポジウムを開催されていることや連絡広報の協力を行っていることなどを紹介された。またそれに関連した若手研究者のキャリア開発などの活動の他に、他国の教育支援の例や小学校教員が望む研修内容についてのアンケート調査結果などの報告もされた。

フロアからは学習指導要領のとらえかたの指摘や、理科における天文学の特質についての指摘等もあった。1時間半という短い時間に5名の方に登壇いただいたため、やや過密気味な内容で議論の時間がとれなかったのが残念であるが、予想以上に参加者の関心の高さがうかがわれた。なお、参加者は約130名であった。

(仲野 誠)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(404頁)を参照。

〈林忠四郎賞受賞記念講演〉

年会2日目の総会后、H会場にて18:00から30分間、2008年度林忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者は名古屋大学の杉山直氏で、講演題目は「宇宙マイクロ波背景放射をめぐる冒険」であった。講演では、この分野のこれまでの研究の進展と、その中で杉山氏らによって得られてきた研究成果について、ユーモアを交えながらわかりやすく解説していただいた。会場は200名を超える盛況ぶりであった。

〈研究奨励賞受賞記念講演〉

年会3日目、H会場で16:10からおおよそ1時間にわたり、2008年度研究奨励賞受賞者2名の方々に記念講演をしていただいた。一人あたり20分という短い時間ではあったが、それぞれの研究についてわかりやすく紹介していただいた。受賞者と講演題目は次のとおりである(五十音順、敬称略)。稲田直久(理化学研究所)「The SDSS Quasar Lens Search」、井口 聖(国立天文台)「サブミリ波電波干渉計、そしてALMA/ACA」。参加者は150人程度と盛況であった。

〈特別セッション報告〉

ALMA特別セッションは年会3日目の3月26日17:00から1時間半、H会場で行われた。最初に井口聖・日本側プロジェクト・マネージャーから、プロジェクト進捗の報告があった。ALMAが目指すサイエンスの3本柱、銀河形成、宇宙の物質進化、惑星系形成に関して、「ALMAへの期待」という題でお3方に講演をいただいた。森 正夫氏(筑波大学)は、シミュレーション結果などに基づき、ALMAが銀河形成の研究にどのような新展開をもたらすと期待されるかを紹介した。相川祐理氏(神戸大学)は、原始惑星系円盤のなかの分子組成、Hot Corinoでの化学などの観点で、星間化学分野からのALMAへの期待を紹介した。小久保英一郎氏(国立天文台)は、太陽系の特徴と起源、系外惑星の特徴と起源、の観点で、原始惑星系円盤のALMAの観測への期待を説明した。高解像度、高感度とミリ波サブミリ波の特性を活かして、ALMAが人類の宇宙観を広げていくことへの期待を紹介いただき、大変有意義なセッションとすることができた。

(立松健一)

〈懇親会〉

懇親会は3月25日(水)に学内の学術交流会館を会

場に開催された。参加者は事前予約228名、当日申込69名、開催地関係者30名、合計327名であった。(事前予約一般169名、学生59名、当日一般38名、学生31名)

國枝理事長からの開会挨拶、大阪府立大学の南努学長による歓迎の挨拶に続き、海部宣男氏に乾杯の音頭を取っていただいた。乾杯には大阪府立大学ブランドの古代米による「なにわの育(はぐくみ)」を提供していただいた。さらに地元の酒造などから寄付をいただいた吟醸酒、ワインをはじめ、各種飲み物類も味わっていただくことができた。会の中ほどで次期開催地の藤沢健太氏にお言葉を頂戴した。会場はあふれんばかりで大いに盛り上がり、閉会の挨拶のあともぎやかに懇談が続いた。

(小川英夫)

〈保育室〉

保育室は大阪府立大学のB3棟6階604、605、606号室を使用した。7家族、子供10人の利用があった。保育者の派遣は株式会社タスクフォース・ラビットクラブ大阪に依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあたり大阪府立大学の小川英夫氏、米倉覚則氏ならびに同学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(奥村幸子、岡 朋治)

〈ジュニアセッション〉

第11回のジュニアセッションを、天文教育普及研究会と高校生天体観測ネットワークとの共催、日本惑星協会、大阪府立大学、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪市立科学館の後援で開催した。口頭発表47件とポスターのみ発表4件があり、合計51件の発表があった。また、すべての口頭発表はポスターでも発表がなされた。昨年に引き続き今回も、タイの生徒10名が来日して3件の発表を行った。発表内容は多岐にわたっており、10のセッション(太陽、恒星、タイ、星雲・星団・銀河、宇宙開発、月・惑星、流星、小惑星・彗星、望遠鏡、夜空の明るさ)に分けて発表がなされた。口頭発表は、3月26日の午前および午後に行われたが、発表件数が多かったため、1件あたりの発表時間は4分となった。ポスターセッションは、13時と16時から1時間ずつ行った。口頭発表は、ライブ!ユニバースおよび和歌山大学観光学部のご協力により、インターネットで中継された。ジュニアセッションへの参加の手続きをした人数は265名であり、その他に多くの研究者の参加があった。司会は、野上大作氏(京大花山天文台)、内藤博之氏(名古屋大学)、

山村一誠氏（宇宙航空研究開発機構）、伊藤信成氏（三重大学教育学部）をお願いした。なお、3月27日には、高校生天体観測ネットワークと共同して、日頃の活動報告を主体とする交流セッションを行った。また、3月26日の夕方から夜にかけて、ジュニアセッション特別企画として天体観望会を行った。観望会は、星空会と大阪府立大学理学部宇宙物理学研究室の共催で行われ、天の川急便、いくやくの星空、大阪府立大学天文部、国際航業株式会社ほかの協力をいただいた。全体を通して、開催地のスタッフの方々には多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

（吉川 真）

〈公開講演会〉

一般向けの公開講演会は「新しい望遠鏡で未知の宇宙をさぐる」をテーマに、「ガリレオの驚きから400年、果てしない宇宙の謎を間近に」の副題で、3月28日（土）13:00より17:00まで大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学術交流会館多目的ホールで開催された。好天ながら肌寒い一日であったが、熱心な来場者96名に恵まれた。半田利弘天文教育担当理事の司会による國枝秀世理事長の挨拶に続き、同教授（名古屋大学）の講演「想像を超えた激動の世界を見るX線望遠鏡」では、X線天文学の研究についてその歴史から最新の成果、さらに次期X線天文衛星計画までという豊富な内容が短い時間でコンパクトにまとめて紹介された。最初の講演であることもあり、X線天文学に限らず可視光以外の天文学がいかに現代天文学に大きく寄与してきたかについても紹介された。続いて、芝井広教授（大阪大学）の講演「遠くの宇宙に第二の地球を探す赤外線望遠鏡」では、太陽系の惑星を手始めに系外惑星観測の現状と今後の展望、それに対する大学規模での実験などが紹介された。太陽系の惑星につい

て、冷蔵庫の中身を使った説明があり実感的な演出が斬新だった。休憩を挟んで行われた、小川英夫教授（大阪府立大学）の講演「光では見えない闇の世界をとらえる電波望遠鏡」では、電波望遠鏡の構造と仕組みから電波天文学によって明らかにされた星間物質の存在と恒星や惑星の形成などが紹介され、大学で建設中の電波望遠鏡やALMA、ASTEなど最新の望遠鏡についても紹介された。最後に井上允教授（国立天文台）の講演「見えないブラックホールをとらえる電波望遠鏡」では、ブラックホールとその周囲の降着円盤について紹介があり、それを観測する電波望遠鏡、特に、次に打ち上げが予定されているVSOP2計画について紹介された。各講演の後には長めの質問時間を設けたが、熱心な質問が相次ぎ、来場者の関心の高さが伺えた。休憩の際には最新の電波受信機やX線望遠鏡の主鏡、あるいは、博物館でお馴染みの重力井戸実験模型などが別室に展示され、講演者の解説もあり多くの参加者が立ち寄った。実施したアンケートは50%以上という驚異的な回収率で、今後の公開講演会の広報や内容編成の参考にしたいと考えている。前回好評であった講演者の著書直販は諸般の都合により今回は実施されなかったが、次回以降は可能な限り実施したいと考えている。なお、本企画は世界天文年2009日本委員会公認企画として認定され、世界天文年2009日本委員会、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市立科学館、日本惑星協会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社大阪本社、日本経済新聞社、大阪日日新聞、毎日放送、朝日放送、KBS京都、サンテレビジョン、ラジオ関西、ラジオ大阪、FM大阪、エフエム京都、大阪府立大学の後援で実施された。

（半田利弘）

（年会実行委員長：本間 希樹）

（社）日本天文学会へ2009年1月10日～3月25日までの間に入会された方、退会された方、除名された方をお知らせいたします。

正会員入会（16名）

高本 亮 京都大学・大学院理（在学）
猿谷友孝 東京学芸大（在学/大学院進学予定）
柏木雄太 東京学芸大・大学院（在学）
秋里 昂 東京学芸大・大学院（在学）
三代木伸二 東大宇宙線研究所
宮澤拓也 名古屋大・大学院理（在学）
大麻正士 早稲田大・大学院先進理工（在学）
高橋安大 東京大（在学/大学院進学予定）

鈴木仁研 国立天文台・先端技術センター
佐古伸治 東海大（在学/大学院進学予定）
岩切 渉 埼玉大・大学院理（在学）
中嶋英也 東京工業大（在学/大学院進学予定）
蒔苗陽太 名古屋大・大学院理（在学）
加納康史 名古屋大・大学院理（在学）
佐藤直人 入間市児童センター
小池邦昭 総研大（在学）

準会員入会 (13名)

門倉 強	ミヤチテクノス(株)	正本 雅	埼玉県比企郡在住
佐藤正典	名古屋大・大学院理 (在学)	白石希典	名古屋大・大学院理 (在学)
小野間史樹	神奈川県横浜市在住	保坂 俊	名古屋大・大学院理 (在学)
佐藤幹哉	国立天文台・天文情報センター	孝森洋介	大阪市立大・大学院理 (在学)
緑川治雄	(株)日立システムアンドサービス	金井政人	佐渡農技術センター
中嶋隆三	宮城県仙台市在住	中沢義明	長野県上田市在住
今井悠太	大阪大・大学院理 (在学)		

賛助会員入会 (1社)

アイティーティー・ヴィアイエス(株)

移籍会員 [正→準] (3名)

牛山孝夫 川道俊見 知念正剛

正会員退会 (14名)

林 寛人	前澤 潔	Nemes Norbert	田原 亮	副島裕一	松本明子
田邊幸子	原田明理	宮田恵美	奥山 翔	児島和彦	蒲原龍一
上田 剛	高橋昌也				

準会員退会 (10名)

小林吉夫	北越康敬	高岸邦夫	斉藤勝利	川崎淳一	深田 豊	酒井 侖
前川紘一郎	富永善弘	小橋好雄				

正会員除名 (20名)

G. A. Tammann	志岐成友	平家和憲	佐々木孝浩	保田悠紀	道頭健一
櫻井冬子	勝浦真弓子	新田敦子	Scot Kleinman	桑原健二	高木 亮
佐藤光浩	木暮宏光	栗野穰太	Nonesa Jelly Grace Betoya		西村仁志
金井 徹	西田麻衣子	堀 美沙			

準会員除名 (12名)

佐藤英男	征矢野隆夫	鳩宿数智	福留正博	本郷 寛	三橋一雄	藤井一平
水野紘子	樋口奈美	池田真行	宮本将雄	石田美恵		

天文月報オンラインの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード vol198 の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

児玉忠恭(編集長), 浅井 歩, 柏川伸成, 衣笠健三, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 三好 真, 山崎 了, 吉田直紀

平成 21 年 5 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2009 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)